


国際金融自己体験記(横須賀高校の前後から就職・退職まで)を記載

時 期	体 験 事 例
昭和27年 (1952年)	8月横須賀に転入。米人を身近に見て驚く。田浦社会館で英語遊ぶ。米ドル札(グリーンバック)に触れる。
昭和28年 (1953年)	横須賀高入学。最初の英語の試験史上最悪・落胆。夏休み猛特訓(山崎貞)。2学期平均以上、しかしボキャ貧。
昭和31年 (1956年)	大学入試失敗。予備校(全ての科目で平均以下)。英語読解力・作文力に弱点。2学期平均以上に到達。
昭和32年 (1957年)	横国大合格。米軍横須賀基地洗濯工場(夏期休暇)。横浜港の荷揚作業(夜間勤務補助)。外書講読訓練。
昭和35年 (1960年)	夏季休暇就職活動。東海銀行内定(英語適性検査のみ)。
昭和36年 (1961年)	丸の内支店配属。外国為替担当(為替管理・信用状・船積書類・両替)。国際電報(電話、TELEXなし)。
昭和40年 (1965年)	横浜支店転勤、日米会話学院(社内選抜合格)
昭和43年 (1968年)	ニューヨーク支店転勤、ウォール街、NY連銀、スミソニアン博物館、プラザホテル、ニクソンショック(ドル売/円買)。
昭和45年 (1970年)	ロスアンゼルス支店転勤。現地進出企業に融資。
	東京本部⇒大阪営業部⇒名古屋本部 
昭和55年 (1980年)	ジャカルタ事務所。現地生産金融。現地通貨ルピア建取引。ルピア切り下げ対策。豪邸に居住。使用人管理。
	大阪本部
昭和61年 (1986年)	ヤマザキマザック(工作機械大手)出向。ケンタッキー州所在の工場派遣。フォートノックス(金塊貯蔵所)
	名古屋本部
平成4年 (1992年)	セントラルファイナンス(信販大手、現セディナ)。米国不良債権回収(アパート管理。売却⇒為替要因により全額回収)

退職後の海外旅行体験: アメリカ、ドイツ、イギリス、フランス、イタリ:



	用 語	解 説
1	債務不履行 (Default)	デフォルトとは何もしないこと。対外債務の支払停止、延期。これは借金の踏み倒し。最近の実例：ロシア、韓国、インドネシア、タイ、アルゼンチン。IMF、世界銀行、米、英、日などの援助。昔は軍事介入で差押、没収。
2	変動相場 (Floating Exchange Rate)	為替市場の動向に従う（反対：固定相場）。ブレトンウッズ体制⇒ニクソン・ショック(ドルの金交換停止) ⇒スミソニアン合意(固定相場動揺)⇒キングストン協定(変動相場確立)⇒プラザ合意(協調介入)。
3	基軸通貨 (Key Currency)	国際間の主要支払手段(反対：ローカル通貨)。現在では米ドル、ユーロ。昔は英ポンド(Pound Sterling)、今は米ドル(US Dollar)またはユーロ(Euro)、通貨発行国へ還流、日本円はまだ量質とも信任不足。
4	ヘッジファンド (Hedge Fund)	秃鷹ファンド。ジョージ・ソロスが運用資金で過去最高額投入。英ポンド切り下げの動機など、通貨危機の火種を作る。民間企業の株式購入により実効支配⇒合併・売却。上場会社(不自然な)が対象になりやすい。

国際金融の妖怪

平成25年3月28日

	項 目	内 容	訳
1	ヘッジファンド	ユダヤ系資金、国際・通貨の空売り(連鎖反応により拡大)、混乱を仕掛(不安定が商機)	
2	大手金融機関	過剰流動の解消⇒貸し込み、国債購入・投資⇒貸し渋り・剥しに転換・回収、収益拡大策	
3	格付け会社	大手3社(S&P、Moody、Fitch)、金融機関との癒着、国家を評価すること不可(企業に特化すべし)	
4	中華人民共和国	豊富な外貨保有、共産党独裁、覇権主義、華人経済圏確立	
5	PIIGS	産業基盤脆弱、放漫財政、放漫生活(脱税・低生産性)、債務過大⇒債務の延期・支払停止要請	
6	ユーロ圏不統一	17ヶ国(大国・小国の不均衡、格差)の政治的思惑・駆引	
7	マスコミ	受け売り取材、過大な報道、取材能力不十分	
8	経済学者	経済理論の展開に終始、新政策拒否、指導力・政治力の欠如	

